

編集後記

酷しかった暑さも遠のき、本格的な仕事・勉学の時期となりました。患者・障害者の方も冬と夏の季節は体にこたえるようですが、この 10 月という時期、総じて調子がよいようです。理学療法に作業療法に、それぞれのゴールに向かって励んでおられることでしょう。

さて、今日は特集としてダウン症をとり上げました。以前、精神薄弱については「特集」や「研究と報告」では数回とり上げられたことがありますが、ダウン症ははじめてです。同じ高次中枢神経系障害でも脳性麻痺に比べダウン症など精神薄弱は PT、OT の対象として考えられにくかったようです。運動発達遅滞はあってもいつかはそれなりに歩けたり手の動作ができるようになっていたからでしょうか。むしろ特殊教育や保育側からのアプローチが盛んでしたし今もそうです。ところがアメリカやイギリスなどでは PT、OT の雑誌にすでに数年前から論文が頻繁に載るようになっていし、わが国でも肢体不自由児施設の外来や地域のディセンターなどで PT や OT の対象とされはじめました。早朝発見・治療の技術の進歩によって脳性麻痺同様その運動発達を早期から促すことができるようになったからでしょう。それと同時に幼児への ADL 訓練や手の訓練に OT が適用されはじめました。ともあれ、PT、OT にとってこの分野は、魅力に富んだ今後の課題の一つと云うことができましょう。今回は児童精神医学の権威上出先生に「ダウン症の成因と診断」をおねがいし、この分野の正しい知識を得ていただこうと思いました。池田氏による「知能・性格の特徴と育て方」と併せて、この分野の理解を深めていただきたい。また精神薄弱福祉の面で偉大なお仕事を続ける中村健二先生の論文は、ダウン症の予後を知るという点熟読していただきたい。PT (佐々木氏)、OT (長谷川氏) の貴重な実践も、今後この方面を志す諸氏に多いに参考にならうかと思います。

(寺山久美子)

第 3 回「理学療法と作業療法」

賞・入賞について

第 3 回「理学療法と作業療法」賞の懸賞論文テーマは『脊髄損傷における理学療法と作業療法』、『理学療法士・作業療法士の教育 (学校教育、臨床教育、卒後研修など)』の 2 題で募集をいたし、本年度 7 月末に締め切りました。

編集委員会による厳重な審査の結果、第 3 回「理学療法と作業療法」賞・入賞、準入賞はともに該当なしと決定いたしましたので、ここに御報告申し上げます。

「理学療法と作業療法」編集室

*

*

*

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長

五味 重 春
筑波大学心身障害学系教授

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
わらび診療所

大喜多 潤
兵庫県リハセンター

鈴木 明 子
府中リハビリ専門学校

寺 山 久美子
都心障センター

奈 良 勲
有馬温泉病院

福 屋 靖 子

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

大 橋 博

大 丸 幸

金 子 翼

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

駒 沢 治 夫

佐 藤 章

佐 藤 馨

嶋 田 智 明

高 橋 正 明

武 富 由 雄

谷 岡 淳

富 岡 詔 子

中 屋 久 長

藤 沢 しげ子

松 本 妙 子

丸 谷 隆 明

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

和 才 嘉 昭
(担当 細田・西塚)